

# あけぼのすぎ

都立府中療育センター新聞 第501号 発行日 令和元年8月1日

## 第61回 日本小児神経学会学術集会 参加報告

小児科 白井 育子

5月31日（金曜日）～6月2日（日曜日）に、名古屋国際会議場にて開催された日本小児神経学会学術集会に参加してきました。今回は「多様性が支える小児神経学」をテーマとし、3日間を通じてとても盛況な学会となりました。

当センターからは、昨年より1つ演題数を増やし、6つの演題を発表してきました。伊藤副院長は「てんかんとして加療中に低身長に気づいたsepto-optic dysplasiaの1男児例」、田沼部長は「重症心身障害児者の腸内細菌叢の解析」、大越医長は「異なるてんかん経過を辿った認知症ダウン症候群の2例」、小出医長は「有馬症候群の1剖検例ー16年間の腹膜透析を経てー」、渡邊医員は「年長ATR-X症候群の1剖検例」、私（白井）は「ECHS1遺伝子変異によるLeigh症候群に対する食事療法の検討」について、それぞれ発表や討論を繰り広げました。

今回も多数の魅力的な話題に触れ、普段では中々お会いできない諸先生方とも直接お話ができ、日頃の診療業務に役立つ素晴らしい機会を得ることができました。また、この場を借りて、神経小児科医の不在が多い学会期間中、センターを守ってくださった皆様に感謝申し上げます。



## センターHP内に移転案内を掲載しました

事務室 広報担当

府中療育センターホームページの中に、令和2年6月に移転予定の、新センターに関する情報を掲載するページを作成いたしました。アドレスはこちらです。

[http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/oshirase/iten\\_annai.html](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/oshirase/iten_annai.html)

スマートフォンの方は、右下の2次元コードからも御覧になれます。

今後も工事写真の更新などを通じて、新センターへの移転まで、こちらのページで順次情報を発信してまいります。



## 招待観劇会を開催しました

1-B 福祉職

6月12日（水曜日）、マリンバ奏者の宮野下子竜さんをお招きし、招待観劇「マリンバ演奏会」を開催しました。演奏されているのは日本で一番大きなマリンバだそうで、スタッフもマリンバの一部を持たせてもらいましたが、腰が抜けるかと思うくらいの重さでした。このマリンバはなんと5オクターブもの音が出せるそうです。

演奏会では初めに、6月に誕生日を迎えられた利用者さんへお祝いの演奏をしていただきました。その後は、カノンや季節の曲など、馴染みのある曲を演奏していただき、利用者さんは手拍子や身体でリズムをとって楽しんでいました。

アンコールは「熊蜂の飛行」という曲で、高速でマリンバを連打する素晴らしい技を見せていただき、「よかった」「楽しかった」「また来て欲しい」という利用者さんの熱烈な声が聞こえました。御家族や他病棟の利用者さんも多数参加されて大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことができました。



## 車イス搬送 シミュレーションを行いました

看護科開設準備担当・事務室移転担当

6月25日（火曜日）、新センター移転計画策定のため、26台（1病棟分）の車イスを5階エレベーターホールから1階駐車場まで搬送するシミュレーションを行いました。

作業に要した時間は10分弱で、想定した時間内に搬送できることを確認しました。エレベーターに搭乗する際の向きや同時に搭乗可能な台数、複数のエレベーターが同時



に着いた際の誘導方法など、様々な課題や対策がみえてきました。

今後は通所バスを使用して、現センターから新センター付近まで搬送するシミュレーションを7月に1回、9月以降は毎週実施する予定です。

利用者さんの安全かつ迅速な搬送に向けて着実に準備を進めてまいりますので、引き続きご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## 映画会を開催しました

4-2病棟 福祉職

デイルームに大きなスクリーンを設置し、映画「ハンサム★スーツ」を鑑賞しました。思いやりもあって友人もたくさんいるけれど、見た目には自信がない主人公が、着るだけでハンサムになれるスーツを手に入れてハンサムに変身する・・・というストーリーです。

約10年前の映画のため、職員の中には懐かしさを感じる人がいる一方で、若手職員はこんな映画があること



を初めて知ったという人がいました。

またコメディ映画なので、職員や利用者さんの笑い声が聞かれたり、大きな声で反応したり、変身の場面では驚く様子も見られました。

見終わった時に、人は外見だけではなく、大切にしなければいけないことがあるということを気づかされ、心がほっこりしました。

## プール開きをしました

指導科 島田 久雄

7月10日（水曜日）、プール開きをしました。夏はどこにいったのかしらと思うようなどんよりとすっきりしない日々でしたが、この日は少しの晴れ間が見えました。大島院長から「安全に楽しんでください」とのお話しのあとは、指導科職員の「浦島太郎」の演劇と、劇に合わせたミニコンサートを行いました。演劇の浦島太郎、亀、乙姫の受け答えでは利用者さんの表情が豊かになりました。



劇に合わせたミニコンサートでは、「まんが日本昔話のテーマ」「海の声」「サザエさん」「ドラえもん」「パプリカ」をキーボードやリコーダー、ウクレレの演奏にあわせてみんなで合唱しました。最後に利用者さん全員でジェット風船を飛ばしてプール開きを締めくくり、午後のひと時を楽しく過ごしました。

屋外のプールもいよいよ今年が最後です。熱中症に気をつけながら最後のプールを楽しみたいです。

## バスハイクに行ってきました ～2-A病棟・5-A病棟～

2-A 福祉職

5月24日（金曜日）、神代植物公園へバスハイクに行きました。

当日は天気も良く、初夏の暑さを感じる日だったため、アイスノンを背中や脇の下に入れて熱中症対策をして出発しました。

神代植物公園はバラの花が満開で、御家族の方と一緒に木陰を探しながら散策したあと、バラの香りのソフトクリームを食べました。高台から沢山のバラの花を眺めていると利用者の皆さんからは笑顔が見られ、のんびりと景色を楽しむ事が出来ました。

暑さに負けず、みんな元気に帰って来ました。2-A病棟では秋にも、神代植物公園へのバスハイクを計画しています。



5-A 福祉職

7月3日（水曜日）、5-A病棟では3人の利用者さんと半日バスハイクでパルテノン多摩に行きました。

パルテノン多摩には「マジックサウンドルーム」という、オルゴールと自動演奏楽器の博物館がありました。1900年代初頭に作られたバイオリンやピアノが、ふいごの力により自動で軽快な演奏をします。また、中世の頃に作られたという、直径1メートル近くもあるディスクオルゴールの素敵な音色を間近で聴くという、貴重な体験もできました。さらに、バンジョーというアメリカ民謡でよく使われる弦楽器を、投入したコインにより自動演奏する装置では、利用者さんも疑似コインを投入する体験をして、当時のアメリカ西部の酒場の雰囲気を感じることができました。

利用者さんは演奏を聴きながら、博物館のレトロな作りの室内を興味深そうに目を大きく開けて見られたり、職員にタッチングされリズムを感じながら聴き入られたりしていました。梅雨空の下、外出したバスハイクでしたが、博物館の中で記念撮影のほか、素敵な音楽との出会いを体験し、楽しむことができました。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042 (323) 5115

Fax 042 (322) 6207

\*-\*-\*ホームページもご覧下さい\*-\*-\*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>